

# コミュニケーション No.2478

## ISU 倫理規定 2022

ISU 理事会は、ISU 憲章に従い考慮し ISU 倫理規定の改訂版を採択した。

本コミュニケーションは、ISU 倫理規定 2022 を含み、直ちにコミュニケーション 2450 に置き換わる。前回の版との変更点は下線で示される。

トゥブバーゲン  
2022 年 5 月 13 日  
ローザンヌ

会長 ヤン ダイケマー

事務総長 フレディ シュミット

# 国際スケート連盟 (ISU)

## 倫理規定 - 2020

### 第1条 目的

ISU 倫理規定の目的は、ISU の活動に関わる全ての者に対し、行為と完全性の明確な規範を確立し、ISU 及びその管轄下にあるスポーツ (ISU スポーツ) の完全性に対する公共及び内部の信頼を損ねる行為を禁じ、ISU 競技会、エキシビション及びその他の ISU 活動において、スケーター及び全ての参加者を、あらゆるハラスメントや虐待から保護するための規約を提供することにある。

### 第2条 適用範囲

#### 1. 人的適用範囲

本倫理規定の対象となるのは、何らかの立場で ISU に関わる全ての者、あらゆる ISU 競技会や活動の現在及び今後の参加者であろうとする者、全ての ISU オフィスホルダー、ISU 役員、ISU 加盟国 (並びに ISU 競技会及び活動に参加するそのメンバー)、ISU の雇用者、コンサルタント、ISU 競技会の組織委員会及びその役員とボランティア、スケーター、コーチ、医師、チームリーダー、他のチーム関係者、ISU の行動や活動に関わるその他全ての者とする。

#### 2. 実質的適用範囲

- a) 本倫理規定は、ISU の利害関係が存在する場合に広く適用される。また対象となる者が ISU 競技会又は活動に随行しているが参加していない時、また ISU 競技会又は活動に関連しない行為又は発言が、ISU の利益や評判又は ISU スポーツの評判や福利に対して有害である場合にも適用される。
- b) ISU 倫理規定は、ISU 競技会や活動の期間中 (当該箇所への到着から出発までの期間) に会場で起きたものではない ISU 加盟国の国内の問題には適用されない。
- c) ISU 倫理規定は、第三者の主催者には適用されない。第三者の主催者に適用される倫理要件は、ISU 法規、特にオープン国際競技会を管理する ISU コミュニケーション (現在は ISU コミュニケーション No.2171) 及び今後の改訂版において定められる。
- d) インターナショナルカレンダーにおける ISU 加盟国が主催する競技会は、本倫理規定の

付録に示される倫理宣言によって制約され、競技会は、これを遵守するものとする。

e) ISU 加盟国及び第三者の主催者は、その内部の活動に本規定を採用するよう奨励される。

### 第3条 一般行動規範

本倫理規定の対象となる者は：

- －その行為及び書面または口頭のコミュニケーションによって、最高基準の誠実、敬意、公正、フェアプレイ、倫理的振る舞い、スポーツマンらしい態度を体現し、ISU 及び ISU スポーツの評判を害するような行為をしてはならない。
- －ISU、ISU スポーツ及び ISU スポーツのもとで行動する者の公正、誠実、完全性について、内部及び公共の信頼を喚起しなければならない。

如何なる形の発言にも適用される同様の倫理制限は、特に ISU 役員による（それだけに限らない）ソーシャルメディアの使用にも適用される。

特に ISU 役員は、ソーシャルメディアに他の役員、スケーター、コーチ、ISU 加盟国やその代表、ボランティア、ISU 雇用者を含むその他の関係者について特定のコメントを投稿したり、ISU が決定した役員の任務、ISU 競技会の評価や結果についてコメントを投稿したりしてはならない。

### 第4条 差別

本倫理規定の対象となる者は、人種、肌の色、性別（性的指向、性同一性、性表現、性的特徴を含む）、言語、宗教、政治的又はその他の意見、国籍または社会的な起源、特性、出自又はその他の地位、運動能力のような理由をもとに何人たりとも差別してはならない。

### 第5条 表現の自由

ISU倫理規程の適用を受ける旨、本規程第2条に定められているISUのイベント或いは活動が行われる場所、会場、エリアにおいて、政治、宗教、人種に関連する主張の表明は許されない。

本倫理規程が適用されるISUのイベント或いは活動において、本倫理規程が適用されるスケーター或いはその他の人物は、以下のような場合において、自身の考えを表明する機会を得る。

- － メディアとの接触用に用意されたゾーンやセンターでメディアに向けて語る場合
- － 記者会見中或いはインタビュー中
- － チーム会議中
- － 従来型或いはデジタルのメディアにおいて
- － ソーシャルメディアのチャンネルを通じて
- － 競技会開始前に競技会場において。ただし、（たとえばジェスチャーなど）その表現が
  - i. 本倫理規程を含むISU組織規程およびISU定款に則っていること
  - ii. 直接・間接を問わず、人々、国々、組織、および／またはその尊厳を狙ったものではないこと

- iii. (他のスケーターやチームの国歌が流されている間など) 混乱を招くものではないこと、また、(旗やバナーを広げるなどして) 他のスケーターやチームやプロトコルの紹介を物理的に邪魔するものではないこと、人や器物に物理的な損傷を与える(或いはそのようなリスクを前提とした)ものではないこと

## 第6条 ハラスメントと虐待

1. 本倫理規定の対象となる者は、性的、身体的、心理的なあらゆるハラスメントや虐待を、単一であれ、それらの組合せであれ、一度の事例、連続した事例、対面、インターネット(ソーシャルメディアを含むがそれだけに限らない)に関わらず避けねばならない。また権威の乱用(その他の人に対する影響力、権威のある立場の不適正な使用)も避けねばならない。虐待は、ネグレクト(放棄)やネグリジェンス(怠慢)の形をとることもある。

### 2. 本条項において：

- “セクシャルハラスメント”とは、望まれない嫌がられる性的な性質の身体的、言語的、非言語的行為を意味する。セクシャルハラスメントは、性的虐待の形をとりうる。
- “性的虐待”とは、非接触、接触、挿入に関わらず、同意が操られた、又は与えられていない与えることができない場合、依存関係の下、同意が強要、操作によって得られた、或いは法的有効性をもって与えることができない場合の性的行為を意味する。
- “身体的虐待”とは、殴打、蹴り、噛みつき、火傷など選手の体を傷つける行動によって引き起こされた故意、非過失の外傷、或いは嫌がられる行為を意味する。かかる行為には、強要された或いは不適切な身体的活動(例：年齢又は身体的に不適切なトレーニング負荷による負傷や苦痛)、強要による飲酒、強要或いは組織的なドーピング行為も含まれる。
- “心理的虐待”とは、上下関係において故意、継続的、反復的な非接触行為のパターンを意味する。具体的には、監禁、隔離、暴言、屈辱、脅し、幼児化、或いは自己認識、尊厳、自尊心を傷つけうるその他の扱いを含む嫌がられる行為などで構成される。この虐待は、ほかの種類の虐待においてもその中核に必ず存在するものである。
- “ネグレクト” 或いは “ネグリジェンス” とは、コーチ又はケアの義務を負うその他の者が選手に対する最低限のケアを提供することを怠り、それによって危害を起こす、危害が起こるのを許す、又は差し迫った危害の危険性をもたらすことを意味する。具体的には、選手の安全についてさまざまな面で遺漏があるなどを言う。たとえば、食べ物や飲み物を与えない、休息や回復が不十分である、安全な身体トレーニング環境が用意されていない、年齢や体格に不適切なトレーニングメソッドを策定するなどである。この定義は、コーチにも付き人にも適用される。

## 第7条 ハラスメントと虐待の案件報告手順

1. ISU 競技会やその他の ISU 活動の期間内に、ハラスメント或いは虐待の疑いのある事案の被害を受けた者、又は目撃した者は、ISU懲戒規律手順(現在は ISU コミュニケーション No.2001)に従い、違反者とされる者に対する訴状を提出するか、以下のいずれかに書面または口頭で報告することができる。

- －ISU 競技会の ISU 代表
- －ISU イベント・マネージャー
- －ISU イベントコーディネーター
- －ISU 医事委員会議長
- －ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマン、現在は Ms.Christine Cardis、ISU アンチドーピングマネージャー ([ombudsperson@isu.ch](mailto:ombudsperson@isu.ch)) 当該オンブズマンは、特に選手に対するハラスメントや虐待の目撃や疑いを ISU に報告すべきか否かについても指導し、また報告する場合は、その手順に関して個人に指導を行う。
- －スケーターが案件に関与している場合：ISU 選手委員会のいずれかのメンバー

2. 上記の報告経路へのスケーターに対するハラスメントや虐待の報告は、全て ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマンに委ねられるものとする。

ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマンは、かかる報告が可能な限り文書で記録されるようにする。文書には、名前、役職、住所、連絡先情報、報告者の署名、事実や証拠を含む報告書の根拠となる情報（例：録画動画、写真、その他の文書または電子的証拠、疑いのある事案を目撃した者の名前）を含むものとする。

報告書の実事実や証拠に基づき、ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマンは、(適切な場合)、ISU 医事委員会議長及び/又は ISU 法務アドバイザーと相談後、報告者に対して何らかのフォローアップ行動が必要か、推奨されるか、また事案を ISU 懲戒委員会に提出すべきか、及び/又は当該地域の法に従い、現地当局に通知すべきかを決定する。

報告者が事案を ISU 懲戒委員会に提出しないと決めた場合、及び/又は ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマンの推奨に反して現地当局に通知すると決めた場合、ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマンは、報告書及びコメントを ISU カウンシルに送るものとし、ISU カウンシルは、その後、訴状を ISU 懲戒委員会に提出するか、及び/又は ISU の名で現地当局に通知するかを決定する。しかし、報告者が、申し立てられた事案の被害者とされる者である場合、ISU ハラスメント及び虐待担当オンブズマンは、報告者の明示的な口頭又は書面での合意がある場合のみ報告書を送るものとする。

3. ISU の機関及び ISU の職務を担うものは、原則として、申し立てられたハラスメント や虐待の事案、関係者の個人情報、調査の際に得られたその他の情報、ISU 機関のメンバー 或いは ISU の職務を担う者として得た調査結果（機密情報）の機密を守るものとする。

4. 機密情報は、適切な者又は当局に対し、以下の場合のみ開示されうる：

- －ISU 憲章第 25 条に従って開始された ISU 懲戒委員会の懲戒手順の枠組みにおいて；  
或いは
- －かかる情報の開示を怠ったことで、ハラスメントや虐待が継続し、被害者、特に選手に  
対し、さらなる危害がもたらされる可能性がある場合；或いは
- －かかる機密情報が潜在的な犯罪行為に関連する場合

5. 上記 7.3、7.4 項に関わらず、機密情報を含む ISU 懲戒委員会の決定は、ISU 憲章第 28 条 2 項に従って公表されるものとする。しかし、ISU 懲戒委員会の決定の公表にあたり ISU は被害者の同意無く被害者のいかなる個人情報も含めず、プライバシーに配慮する必要がある事案では、できる限り報告者やその他の証人の個人情報を機密にするものとする。

## **第8条 詐欺、収賄、横領、不当利得**

本倫理規定の対象となる者は、詐欺、収賄、横領、ISU の基金、資産、サービスを（個人の利益を含むが、それに限定されない）ISU 以外の利益のために乱用するようないかなる行為も避けなければならない。

## **第 9 条 個人利得**

本倫理規定の対象となる者は、ISU 又は ISU 加盟国の規律や規則或いは契約に基づいて認められていなければ、ISU 競技会や活動に関連して、個人利得のために報酬、手数料又は何らかの隠された利得やサービスを、直接的又は間接的に求めたり、受領したり、供与したりしてはならない。

## **第10条 贈答品、優遇**

1. 本倫理規定の対象となる者は、ISU の活動における関与に関連して、ISU 或いは ISU スポーツの信用失墜をまねくことが合理的に想定されるような贈答品、報酬、その他の利得を授受してはならない。これには、現行の現地の慣習に鑑みて、名目上の価値や通常のもてなしを超える贈答品や接待などのもてなしが含まれるが、それだけには限られない。

2. 200スイスフランを超える価値の贈答品を授受してはならない。ただし状況により、贈答品の拒否が認められない場合を除く。その場合、受領者は贈答品を ISU 事務局に渡し、贈答品は ISU が受領した旨、贈与者に通知するものとする。

3. 本倫理規定の対象となる者は、200スイスフランを超える価値のもてなしや利得を、ISU 会長、ISU 事務総長双方の書面による事前承認無しに（そのような事前承認が所定の状況下で可能である場合）受領してはならない。

## **第11条 利害相反**

1. 本倫理規定の対象となる者は、いかなる利益相反も避け、利益相反を引き起こすと合理的と考えられるような状況に自らを置くことを避けなければならない。

2. 本倫理規定の対象となる者は、
- a) 利益相反に関わると合理的に考えられるような状況における個人的な利害を速やかに開示するものとする。
  - b) 個人又は家族の利得、世間の称賛に関わる決定を下したり影響を与えたりしてはならない。
  - c) 第三者や自身の ISU 加盟国を不当に優遇してはならない。

3. 本倫理規定の対象となる者は、ISU の公的な役職を担う場合、自身の ISU 加盟国における公的な役職を同時に担うことはできない（ISU に対する独立性、義務、忠誠に反する、或いは、そう見える可能性がある）。

## 第12条 影響、操作

1. 本倫理規定の対象となる者は、スポーツの倫理、公正な行為、フェアプレイの原則に反するやり方で、ISU 管轄下のスケート競技会の進行及び/又は結果に不適正に影響を与えたり、操作したりする行為や試みを避けなければならない。

2. 本倫理規定の対象となる者は、絶対的な独立性を維持し、特に、あらゆる収賄、インサイダー情報の乱用、ISU 加盟国のコーチ、スケーター、その家族、ISU オフィスホルダー、ISU加盟国に対する不当な優遇又は偏見への関与を禁ずる「競技会の操作防止に関するオリンピックムーブメント規定」を遵守しなければならない。

3. ISU役員は、中立の立場で、偏見（国家的偏見を含むがそれだけに限らない）無く行動しなければならない。

4. ISU 役員は、ISU 一般規定の規則第 125 条 3 項に従い、ISU 競技会において役員の不適切又は規則に反した行為が目撃された、或いは疑われた場合、速やかにレフリー又は ISU 代表に報告する義務を果たさなければならない。

## 第13条 賭博

1. 本倫理規定の対象となる者は、スポーツ賭博運営者主催のスケート競技並びに、ISU、冬季オリンピック競技会、冬季ユースオリンピック競技会管轄下のスケート競技会/活動、及び ISU がそのスポーツを代表するその他の競技会/活動に関する、あらゆるスポーツ賭博行為に参加してはならない。特に、その競技会への参加、又は自身のスケート種目であるか否かに関わらず、いかなるスケート競技においても賭けをしてはならない。

2. 本倫理規定の対象となる者は、何のスポーツであれ違法な賭博行為に参加してはならない。

3. この条項において、“賭博”は、金を儲けるため、スポーツ競技の結果に対して金を賭けるスポーツ賭博行為を意味する。個別に示された場合を除き、本倫理規定はその他のギャンブル（ポーカーやカジノサービス）又は宝くじ、ビンゴ、スクラッチカード、プロモーションゲームから成る営業促進サービスのような運が左右するゲームには適用されない。

## 第14条 報告

本倫理規定の対象となる者は、IOCインテグリティ・アンド・コンプライアンス・ホットライン（[www.olympic.org/integrityhotline](http://www.olympic.org/integrityhotline)）で ISU 会長又は IOC に、如何なる賭博、操作、収賄及び/又はインサイダー情報の乱用に関しても、その知識又は申し出の詳細を全て、できるだけ早く開示するものとする。

## 第15条 ドーピング

本倫理規定の対象となる者は、ISU アンチドーピング規則及び ISU アンチドーピング手順書の条項を遵守し着実に実行しなければならない。

## 第16条 違法薬物

あらゆるISU 競技会又は活動又は ISU によって認可された競技会に参加又は随行する本倫理規定の対象となる者は、違法薬物の配布、使用、所有をせず、直接的、間接的な違法薬物使用又は薬物規則違反に関与、助長をしないものとする。

## 第17条 制裁

本倫理規定の違反は、ISU 憲章第25条に従い、懲戒手続き及び制裁措置の対象となる。

## 第18条 IOC 倫理規定及びその他の IOC 倫理文書

1.IOC 倫理規定及び下記2項に記されたその他の IOC 倫理文書の本倫理規定対象者への適用は、明示的に留保される。

2. IOC のその他の倫理文書を以下に記す：

- －IOC 会長選出に関する指令
- －オリンピック関係者に影響する利害相反に関する規則
- －2026 冬季オリンピック競技会立候補手順に関する規則
- －ユースオリンピック競技会の立候補手順行動基準
- －2020 東京オリンピック競技会のプログラム参加を求める国際連盟のための行動基準
- －オリンピック・スポーツムーブメント・グッドガバナンス基本普遍原則
- －オリンピックムーブメント競技操作防止規定
- －IOC 倫理委員会法規
- －倫理原則違反事例の管理手順規則



## 付録

### 倫理に関する宣言

〔名前、詳細〕（主催者）は、ISU が認可した国際競技会の完全性を守るため、以下の倫理原則を順守することをISU に対し宣言する。

- (i) 主催者は、最高基準のフェアプレイ、誠実、敬意、真実、公正、倫理的振る舞い、スポーツマンらしい態度を遵守することを求められる。主催者は如何なるアイススケート競技会においても、スポーツ倫理に反するやり方でその進行及び/又は結果に影響を与えようとする如何なる試みも避けるものとする。
- (ii) 主催者は、性的搾取から若年スケーターを守るためベストプラクティスを適用する。  
（とりわけその指示のもと行動する雇用者、サービス提供者、役員に関して）
- (iii) 主催者は、若者、弱者を含む全てのスケーター、役員、ボランティア、雇用者を、敬意をもって差別なく扱うことに同意する。
- (iv) 主催者は、若年スケーターを搾取せず、いかなる若年スケーター（18 才未満）も適格者が代理人となるようにする。
- (v) 主催者は、利益相反に関わると合理的に考えられうる利害関係を開示し、利益相反を直接的又は間接的に引き起こす如何なる活動も避けることを誓約する。
- (vi) 主催者は、スケートの信用失墜を招く又は、スケートの完全性を害する行為に関与しない。
- (vii) 主催者は、以下のいずれも最終判断で否定することを確認する：組織犯罪への関与、収賄、詐欺、テロリスト活動に関する犯罪、違法薬物に関する犯罪、マネーロンダリング。
- (viii) 主催者は、競技会会場又はウェブサイト又はソーシャルメディアプラットフォームにおいて、タバコ製品又は蒸留酒（アルコール度数絶対値20%超）の広告宣伝を行わないことを確認する。

(ix)主催者は、自身がスポーツ賭博運営者\*ではないことを確認し、競技会会場又はウェブサイト又はソーシャルメディアプラットフォームにおいて、いかなるスポーツ賭博活動をも避けるものとする。

(x)主催者は、IOC インテグリティ・アンド・コンプライアンス・ホットライン ([www.olympic.org/integrityhotline](http://www.olympic.org/integrityhotline)) で、如何なる賭博、操作、収賄及び/又はインサイダー情報の乱用に関しても、その知識又は申し出の全詳細をできるだけ早く ISU 会長又は IOC に開示することを誓約する。主催者は、また ISU 憲章規則第 125 条 3 項に従い、如何なる競技会においても、役員に関する不適切又は規則に反した行為又は申し出を報告するものとする。

主催者は、上記原則の違反が国際競技会開催許可の取り消しにつながる可能性があり、その取り消しによって引き起こされた損失は主催者のみが負担することを ISU に対し、ここに認めるものである。

[主催者]

[日付]

\*宣言の目的において、“賭博” は、金を儲けるため、スポーツ競技の結果に対して金を賭けるスポーツ賭博行為を意味する。個別に示された場合を除き、本宣言は、その他のギャンブル（ポーカーやカジノサービス）又は（宝くじ、ビンゴ、スクラッチカード、プロモーションゲームから成る営業促進サービスのような）運が左右するゲームには適用されない。